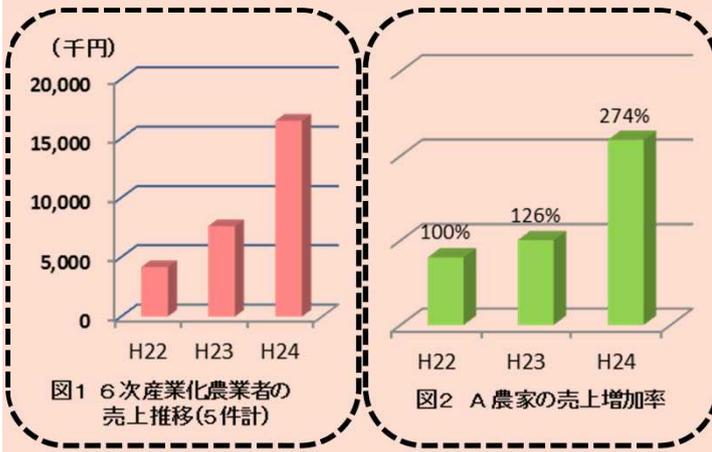


- 管内では農産物直売所の発展と共に、6次産業化や農商工連携により所得向上を目指す農業者が増えつつある。
- そこで、普及所では平成23年度より研修会・商談会の開催や、個別農家が抱える課題解決に向け様々な支援を行ってきた。
- その結果、新たな商品が登場し、売上が大幅に増加する農業者が出てきた。また、新たな取り組み希望者も出始めている。

具体的な成果

1. 6次産業化商品売り上げの増加

■6次産業化に取り組み始めた農業者の売上高が増加。平成22年度から24年度の間、単県補助事業を活用し事業開始した5件の農業者の合計売上推移及びその中のA農家の売上推移は、以下のとおり。



2. 新商品の登場

■地元農産物を活用した様々な商品ができてきた。(補助事業活用農業者の商品合計数:3年間で30商品以上)



写真1 人参の粕漬け



写真2 いちご大福



写真3 ヤギ乳プリン

3. 6次産業化の芽生え

■掘り起こしの成果として新たに6次産業化に取り組もうとする農業者が出現。(新規相談案件:H24 9件、H25 6件)

普及員の活動

1. 6次産業化農業者全体への支援

(1) スキルアップ研修会の企画と開催

- ・売れる商品づくりセミナー
- ・販路開拓セミナー
- ・食品衛生技術セミナー 等々

(2) 販路開拓支援

- ・米子高島屋のうまいもんまつりに西部総合事務所(じげ農家のお店)としてブース出展することで、農業者自らPR販売できる体制づくりを実施
- ・百貨店、量販店、卸業者等のバイヤーを招いた商談会の開催(H26.3予定)

(3) 掘り起こし活動

- ・各種研修会、総会等でのPR

2. 重点対象農業者への個別支援

- (1) 経営計画作成支援
- (2) 経営管理実施支援
- (3) 商品開発技術支援
- (4) 食品衛生管理に関する個別指導
- (5) 販路開拓支援
- (6) 情報発信支援

普及員だからできたこと

1. 営農及び加工に関する知識・技術を合わせ持っているからこそ、農業部門と加工部門をうまくリンクさせた経営計画作成支援と、生産から加工・流通・消費までの一貫した支援ができた。

2. 地域密着で活動する普及員だからこそ、農業者と十分に話し合い、農業者の要望に沿いながらその都度必要な支援ができた。